

運用報告書 (全体版)

第14期<決算日2019年11月25日>

世界高配当株セレクト (目標払出し型) 年2回決算・為替ヘッジありコース

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信 / 内外 / 株式	
信託期間	2012年12月17日から2022年11月25日まで	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、日本を含む世界の高配当株投資戦略の運用成果を反映するフロッギー高配当世界株指数 (以下「高配当株戦略指数」といいます。) から得られる総合収益の獲得、および年2回の分配実施 (実質的な投資元本の払い戻しにより一部または全部の額を充当することができます。) による定期的な投資信託財産の一部払い出しを目的とします。	
主要投資対象	当ファンド	投資信託証券
	シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド (JPYヘッジ) - Bクラス	スワップ取引
	国内マネー・マザーファンド	本邦通貨建ての公社債
運用方法	以下の投資信託証券を通じて、高配当株戦略指数 (円ヘッジ・ベース) に実質的に投資を行います。 ケイマン諸島籍外国投資信託 シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド (JPYヘッジ) - Bクラス (以下「エクイティファンド (ヘッジあり) B」といいます。) 円建受益証券 内国証券投資信託 (親投資信託) 国内マネー・マザーファンド受益証券 なお、エクイティファンド (ヘッジあり) B における高配当株戦略指数 (円ヘッジ・ベース) への実質的な投資は、ドイツ銀行ロンドン支店を取引相手とする担保付スワップ取引により行います。	
組入制限	当ファンド	投資信託証券および短期金融商品 (短期運用の有価証券を含みます。) 以外には投資を行いません。投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
	国内マネー・マザーファンド	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等の全額とします。分配金額は、原則として、当ファンドの決算日の直前におけるシンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド (JPYヘッジ) - Bクラス (以下「エクイティファンド (ヘッジあり) B」といいます。) の分配額に基づく額を払い出すことを目標に委託者が決定します。エクイティファンド (ヘッジあり) B の分配金は投資収益に基づくものではなく、原則として、1年毎に到来する特定日の純資産価格に所定の分配率を乗じて得た額としてその1口当たりの分配金が決定されます。結果として、当ファンドの分配金は実質的な投資元本の払い戻しにより一部または全部の額が充当されることがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「世界高配当株セレクト (目標払出し型) 年2回決算・為替ヘッジありコース」は、2019年11月25日に第14期の決算を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

<運用報告書に関するお問い合わせ先>

コールセンター : 0120-104-694

受付時間 : 営業日の午前9時から午後5時まで

お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2

<http://www.am-one.co.jp/>

世界高配当株セレクト（目標払出し型）年2回決算・為替ヘッジありコース

■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			高配当株戦略指数		投 資 信 託 債 券 組 入 率	債 券 組 入 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 込 分 配 金	期 騰 落 中 率	(円ヘッジ・ベース) (参考指数)	期 騰 落 中 率			
10期 (2017年11月27日)	円 13,637	円 250	% 3.8	18,546.69	% 5.0	% 96.4	% -	百万円 731
11期 (2018年5月25日)	13,458	275	0.7	18,880.81	1.8	96.8	-	667
12期 (2018年11月26日)	12,323	275	△6.4	17,785.08	△5.8	97.0	-	506
13期 (2019年5月27日)	12,272	251	1.6	18,298.10	2.9	96.8	0.1	474
14期 (2019年11月25日)	13,338	251	10.7	20,540.92	12.3	97.1	0.1	434

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 「投資信託受益証券組入比率」にはマザーファンドの比率を含みません。

(注4) 高配当株戦略指数はクロッキー高配当世界株指数です（以下同じ）。

(注5) △（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

■当期中の基準価額と市況の推移

年 月 日	基 準 価 額		高配当株戦略指数		投 資 信 託 債 券 組 入 率	債 券 組 入 率
		騰 落 率	(円ヘッジ・ベース) (参考指数)	騰 落 率		
(期 首) 2019年5月27日	円 12,272	% -	18,298.10	% -	% 96.8	% 0.1
5 月 末	12,139	△1.1	18,098.08	△1.1	96.8	0.1
6 月 末	12,556	2.3	18,776.47	2.6	98.5	0.1
7 月 末	12,792	4.2	19,173.78	4.8	97.8	0.1
8 月 末	11,946	△2.7	17,894.15	△2.2	99.0	0.2
9 月 末	12,747	3.9	19,163.45	4.7	98.4	0.2
10 月 末	13,433	9.5	20,273.29	10.8	98.2	0.1
(期 末) 2019年11月25日	13,589	10.7	20,540.92	12.3	97.1	0.1

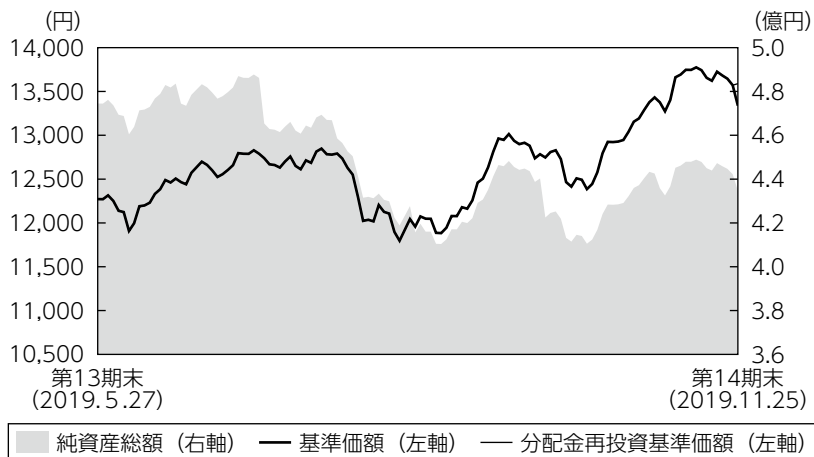
(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 「投資信託受益証券組入比率」にはマザーファンドの比率を含みません。

■当期の運用経過（2019年5月28日から2019年11月25日まで）

基準価額等の推移



第14期首：12,272円
第14期末：13,338円
(既払分配金251円)
騰落率：10.7%
(分配金再投資ベース)

- 純資産総額 (右軸) — 基準価額 (左軸) — 分配金再投資基準価額 (左軸)
- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
 - (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
 - (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
 - (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

当ファンドは、ケイマン諸島籍の外国投資信託「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（J P Yヘッジ）－Bクラス」（以下「エクイティファンド（ヘッジあり）B」といいます。）と国内投資信託「国内マネー・マザーファンド」（運用：いずれもアセットマネジメントOne株式会社）を投資対象とするファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行いました。

エクイティファンド（ヘッジあり）Bは、運用にあたってドイツ銀行ロンドン支店を取引相手とする担保付スワップ取引により、日本を含む世界の高配当株投資戦略の運用成果を反映するクロッキー高配当世界株指数のひとつである「高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）」に実質的に投資しました。

12,272円でスタートした基準価額は米中関係の悪化などを背景に2019年8月にかけて下落し8月19日には期中安値となる11,797円をつけました。その後、事前予想を上回る米国企業業績の発表などから反転上昇し11月13日には13,775円の期中高値を付け、13,589円で期末日を迎えました。（分配金込み）

当期間の基準価額は1,317円（分配金込み）の値上がりとなりましたが、その内訳はおおよそ表のとおりとなります。実質的な投資資産の価格変動（1,594円）が最大の値上がり要因となりました。

内 訳 (概 算)	当 期
A 実質的な投資資産の価格変動	1,594円
B 為替レートの変動	△119円
C 信託報酬等	△119円
D その他の要因	△38円
E 当期の純損益 (A + B + C + D)	1,317円
F 分配金	△251円
基準価額の騰落額 (E + F)	1,066円

- ・「A 実質的な投資資産の価格変動」は、当期中における高配当株戦略指数の構成銘柄の変動率を基に算出したものです。
 - ・「B 為替レートの変動」は、当ファンドが実質的な投資対象とする高配当株戦略指数の変動率から実質的な投資資産の変動率を差し引いた値を基に算出しております。
 - ・「C 信託報酬等」は、当ファンドで支払う信託報酬等および外国投資信託の信託報酬等が含まれます。
 - ・「D その他の要因」には、外国投資信託の売買執行タイミングで生ずる雑損益や売買コストなどが含まれます。
- ※上記の数値は「簡便法」により計算しておりますので、実際の数値とは異なります。したがって、あくまで騰落額の要因を知るための目安としてお考えください。各項目の数値は単位未満四捨五入しております。

投資環境

当期間の世界株式市場について、米国、欧州、日本とも上昇しました。

●米国株式市場

米国株式市場は、期初、F R B（米国連邦準備制度理事会）が金融緩和方向に舵を切ったことを好感し上昇基調でしたが、2019年7月の利下げ発表後に一旦材料出尽くしとなったことに加え、米中関係の悪化も懸念材料となり8月は下落しました。しかし、9月以降は米中交渉の進展報道や7-9月期の米国企業決算が総じて良好と評価されたことなどから大きく上昇しました。S & P 500など、主要な株価指数は史上最高値を更新しました。

●欧州株式市場

欧州株式市場は、期初、経済指標の上振れや商品市況の上昇などから堅調で始まりましたが、2019年8月に米中関係の悪化などから下落しました。その後、E C B（欧州中央銀行）の金融緩和期待、ドイツ政府による財政出動期待、英国の合意なきE U（欧州連合）離脱の当面回避決定といった支援材料から持ち直し、高値圏で期末を迎えました。

●日本株式市場

日本においては、期初、米国の利下げ観測からくる円高懸念などからもみ合いでしたが、2019年8月に米中関係の悪化などから下落しました。その後、欧米株式市場の好調に加え、円安の進行もあり堅調となりました。10月に実施された消費税増税の影響は限定的でした。

●外国為替市場

外国為替市場では、円が米ドルやユーロに対して上昇する展開となりました。米ドル円は109円台後半から始まり108円台半ばの米ドル安円高、ユーロ円は122円台前半から始まり120円台前半のユーロ安円高で期末を迎えました。

米ドル円は横ばい圏での推移でしたが、米中関係の悪化が顕著となった2019年8月にリスク回避姿勢の強まりから米ドル安円高となりました。その後、米中对立緩和期待、英国や香港の政情不安一服感などから、米ドルは値戻し局面を迎えました。

また、ユーロ円については世界景気の減速懸念や、E C Bの金融緩和期待などを背景にユーロ安円高でしたが、2019年10月以降、英国のE U離脱をめぐる不透明感後退などから、ユーロは値戻し局面を迎えました。

●国内短期金融市場

期中の国庫短期証券3ヵ月物利回りは、日本銀行が緩和的な金融政策を継続したことなどからマイナス水準で推移しました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

当期間を通じてエクイティファンド（ヘッジあり）Bを主として高位に組み入れました。

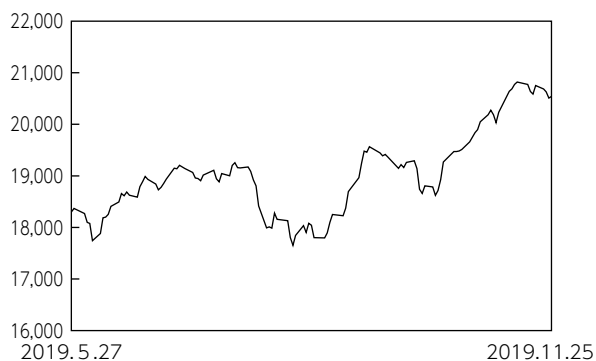
●エクイティファンド（ヘッジあり）B

主として担保付スワップ取引への投資を通じて、高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）から得られる総合収益の獲得を目指して運用を行いました。

●国内マネー・マザーファンド

主として円建ての公社債に投資することにより、安定した収益の確保を目指し、短期公社債を中心に投資を行いました。

高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）の推移



※高配当株戦略指数は、クロッキー高配当世界株指数です。

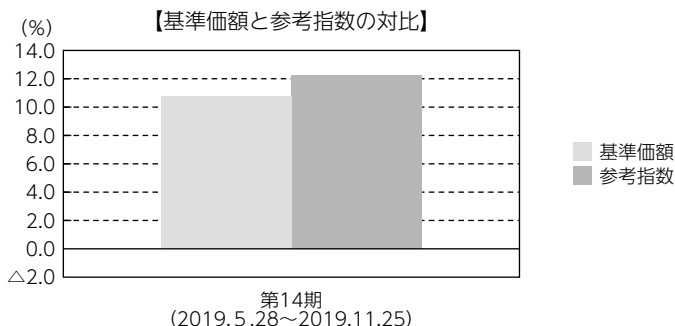
シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド
（JPYヘッジド）- Bクラスの基準価額の推移



※基準価額（分配落ち後）は1口当たりです。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金 (税引前) 込みです。

分配金

収益分配金は、年1回の目標額決定時の基準価額に対して所定の率を乗じて得た額を上限として支払います。第14期は1万口当たり251円を分配しました。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳 (1万口当たり)

項目	当期
	2019年5月28日 ~2019年11月25日
当期分配金 (税引前)	251円
対基準価額比率	1.85%
当期の収益	251円
当期の収益以外	ー円
翌期繰越分配対象額	4,132円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金 (税引前)」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金 (税引前)」の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益 (含、評価益)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続きエクイティファンド (ヘッジあり) Bを中心に組入れを高位に維持し、収益の獲得を目指します。

●エクイティファンド (ヘッジあり) B

引き続き担保付スワップ取引への投資を通じて、高配当株戦略指数 (円ヘッジ・ベース) から得られる総合収益の獲得を目指します。

●国内マネー・マザーファンド

引き続き短期公社債を中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指しますが、市場環境によっては、目標とする運用ができない場合があります。

■ 1万口当たりの費用明細

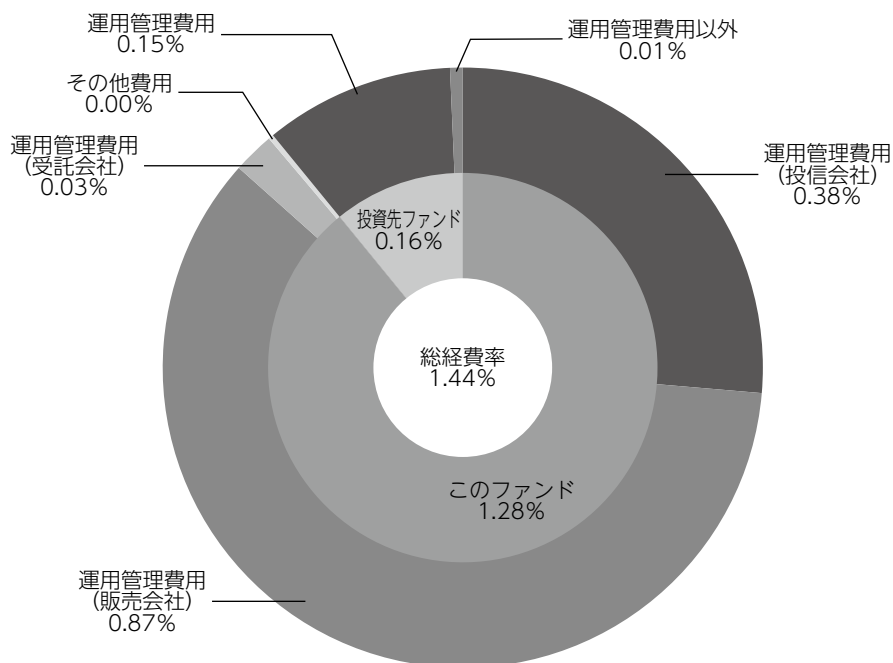
項目	第14期		項目の概要
	(2019年5月28日 ～2019年11月25日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	81円	0.637%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は12,671円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(24)	(0.189)	
(販売会社)	(55)	(0.432)	
(受託会社)	(2)	(0.016)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.002 (0.002)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	81	0.639	

- (注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。
- (注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
- (注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.44%です。



総経費率 (①+②+③)	1.44%
①このファンドの費用の比率	1.28%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.15%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買及び取引の状況 (2019年5月28日から2019年11月25日まで)

投資信託受益証券

		買 付		売 付	
		□ 数	金 額	□ 数	金 額
外国邦貨建	シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド (JPYヘッジド) -Bクラス	千□ -	千円 -	千□ 59,656.793	千円 73,000

(注) 金額は受渡代金です。

■親投資信託受益証券の設定、解約状況 (2019年5月28日から2019年11月25日まで)

期中の親投資信託受益証券の設定、解約はありません。

■利害関係人との取引状況等 (2019年5月28日から2019年11月25日まで)

期中の利害関係人との取引等はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	期首(前期末)	当 期 末		
	□ 数	□ 数	評 価 額	比 率
シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド (JPYヘッジド) -Bクラス	千□ 389,943.45	千□ 330,286.657	千円 422,205	% 97.1
合 計	389,943.45	330,286.657	422,205	97.1

(注) 比率欄は純資産総額に対する比率です。

(2) 親投資信託残高

	期 首 (前期末)	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
国内マネー・マザーファンド	千□ 990	千□ 990	千円 999

■投資信託財産の構成

2019年11月25日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	422,205	94.7
国内マネー・マザーファンド	999	0.2
コール・ローン等、その他	22,491	5.0
投資信託財産総額	445,696	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨ててあります。％は、小数点第2位を四捨五入しています。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2019年11月25日)現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	445,696,093円
コール・ローン等	22,491,155
投資信託受益証券(評価額)	422,205,433
国内マネー・マザーファンド(評価額)	999,505
(B) 負 債	11,037,194
未払収益分配金	8,179,570
未払信託報酬	2,848,525
その他未払費用	9,099
(C) 純資産総額(A-B)	434,658,899
元 本	325,879,309
次期繰越損益金	108,779,590
(D) 受益権総口数	325,879,309口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,338円

(注) 期首における元本額は386,660,118円、当期中における追加設定元本額は419,832円、同解約元本額は61,200,641円です。

■損益の状況

当期 自 2019年5月28日 至 2019年11月25日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	11,986,303円
受 取 配 当 金	11,989,406
受 取 利 息	136
支 払 利 息	△3,239
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	33,684,529
買 入 益	37,995,011
売 入 損	△4,310,482
(C) 信 託 報 酬 等	△2,857,624
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	42,813,208
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	7,432,238
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	66,713,714
(配 当 等 相 当 額)	(77,697,807)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△10,984,093)
(G) 合 計(D+E+F)	116,959,160
(H) 収 益 分 配 金	△8,179,570
次 期 繰 越 損 益 金(G+H)	108,779,590
追 加 信 託 差 損 益 金	66,713,714
(配 当 等 相 当 額)	(77,697,807)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△10,984,093)
分 配 準 備 積 立 金	56,955,886
繰 越 損 益 金	△14,890,010

(注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	11,240,082円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収 益 調 整 金	77,697,807
(d) 分 配 準 備 積 立 金	53,895,374
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	142,833,263
(f) 1万口当たり当期分配対象額	4,383.01
(g) 分 配 金	8,179,570
(h) 1万口当たり分配金	251

■分配金のお知らせ

1万口当たり分配金

251円

※分配金を再投資する場合、分配金は税引後自動的に無手数料で再投資されます。

分配金の課税上の取扱いについて

- ・追加型株式投資信託の分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
 - 分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
 - 分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、分配金から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における受益者毎の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の受益者毎の個別元本となります。

シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド (JPYヘッジド) – Aクラス／Bクラス

当ファンドの仕組みは次のとおりです。

形態	ケイマン諸島籍外国投資信託／円建受益証券
運用方針	主としてスワップ取引を通じて、「クロッキー高配当世界株指数（円建て、円ヘッジあり）」のリターン（コスト控除後）を享受することを目指します。スワップ取引の相手方はドイツ銀行ロンドン支店となります。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、上述のスワップ取引を行う以外にはリスク資産への投資は行いません。 ・有価証券の空売りは行いません。 ・純資産総額の10%を超える借り入れは行いません。 ・流動性に欠ける資産への投資は、純資産総額の15%以内とします。
決算日	12月末
関係法人	投資顧問会社：アセットマネジメントOne株式会社 受託会社：CIBCバンク・アンド・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッド 管理事務代行会社兼保管受託銀行：ミズホ・バンク（USA）
信託報酬等	純資産総額に対し年率0.145% 上記料率には、投資顧問会社、受託会社、管理事務代行会社ならびに保管受託銀行への報酬が含まれます。ただし、これらの報酬の中には取引頻度に応じた額や最低支払額が設定されているものがあるため、取引頻度や資産規模などにより上記料率を上回る場合があります。なお、最低支払額として、受託会社に対し年15,000米ドル、管理事務代行会社に対し年45,000米ドルが設定されています。この他に、監査報酬、弁護士費用および当初設定にかかる諸費用などが支払われます。

「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（ＪＰＹヘッジド）－Ａクラス」及び「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（ＪＰＹヘッジド）－Ｂクラス」は、「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（ＪＰＹヘッジド）」の個別クラスとなっております。

「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（ＪＰＹヘッジド）」の状況

(1) 財政状態計算書

2018年12月31日現在

(日本円表示)

資産		
損益を通じて公正価値で測定する金融資産 (取得原価：3,693,210,990円)		4,529,048,578
現金		52,876,804
資産合計		4,581,925,382
負債		
未払管理事務代行報酬及び未払保管受託報酬		1,389,212
未払専門家報酬		3,730,310
未払管理報酬		641,282
未払受託者報酬		453,284
その他の負債		513,766
負債合計（受益者に帰属する純資産を除く）		6,727,854
受益者に帰属する純資産		4,575,197,528
1口当たりの純資産価額		
クラスＡファンド証券 (発行済ファンド証券口数 7,954,244,544口)		0.5181
クラスＢファンド証券 (発行済ファンド証券口数 404,878,173口)		1.1220

(2) 包括利益計算書

2018年12月31日に終了した会計年度

(日本円表示)

投資収益／（損失）		
損益を通じて公正価値で測定する金融資産にかかる実現純利益		666,566,707
損益を通じて公正価値で測定する金融資産にかかる未実現（損失）／利益の変動純額		(1,239,634,637)
		(573,067,930)
費用		
管理事務代行報酬及び保管受託報酬		6,174,087
管理報酬		3,028,230
専門家報酬		3,096,634
受託者報酬		1,750,706
その他報酬		83,355
		14,133,012
純投資（損失）／利益		(587,200,942)
財務費用		
受益者への分配金		(1,100,918,402)
運用より生じた受益者に帰属する純資産の減少額		(1,688,119,344)

(3) 損益を通じて公正価値で測定する金融資産
2018年12月31日現在

(単位：日本円)

	取得原価	公正価値
トータル・リターン・スワップ契約	3,693,210,990	4,529,048,578
	3,693,210,990	4,529,048,578

(ミズホ・バンク (U S A) 提供の財務書類より作成しております。)

国内マネー・マザーファンド

第11期 運用報告書

(決算日 2019年1月15日)

「国内マネー・マザーファンド」は、去る2019年1月15日に第11期の決算を行いましたので、ここに期中の運用状況をお知らせいたします。

当ファンドの仕組みは次のとおりです。

形態	親投資信託
信託期間	原則、無期限です。
運用方針	主として本邦通貨建ての短期公社債に投資することにより、安定した収益の確保を目指した運用を行います。
主要運用対象	本邦通貨建ての公社債を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	運用による収益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2

○最近3期の運用実績

決算期	基準価額	騰落率		債組入比率	債券優先物比率	純資産総額
		期騰	中率			
	円		%	%	%	百万円
9期(2017年1月16日)	10,110		△0.02	40.4	—	495
10期(2018年1月15日)	10,104		△0.06	—	—	487
11期(2019年1月15日)	10,097		△0.07	—	—	470

※△(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

※本邦通貨建の公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。特定の指数を上回るまたは運動を目指した運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

※ベンチマークとは、ファンドの運用成果の評価基準(目標基準)となる指標をいい、約款または投資信託説明書(目論見書)において、その旨の記載があるものを指します。

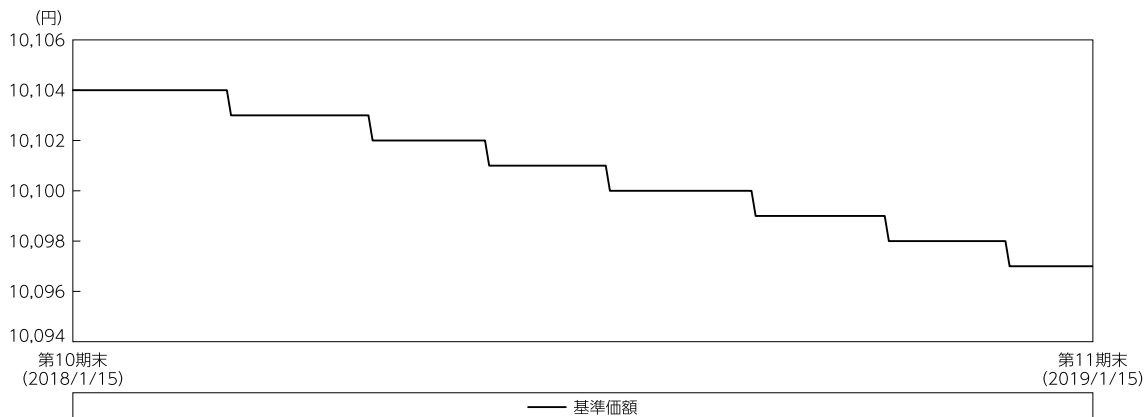
○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		債組入比率	債券優先物比率	債券率
		騰	落率			
(期首) 2018年1月15日	円 10,104		% —	% —	% —	% —
1月末	10,104		0.00	—	—	—
2月末	10,104		0.00	—	—	—
3月末	10,103		△0.01	—	—	—
4月末	10,102		△0.02	—	—	—
5月末	10,102		△0.02	—	—	—
6月末	10,101		△0.03	—	—	—
7月末	10,100		△0.04	—	—	—
8月末	10,100		△0.04	—	—	—
9月末	10,099		△0.05	—	—	—
10月末	10,098		△0.06	—	—	—
11月末	10,098		△0.06	—	—	—
12月末	10,097		△0.07	—	—	—
(期末) 2019年1月15日	10,097		△0.07	—	—	—

※騰落率は期首比。

運用経過の説明

基準価額等の推移 (2018年1月16日～2019年1月15日)



基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主としてわが国の短期公社債に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。基準価額は、期首10,104円からスタートしましたが、マイナス金利の影響が大きく10,097円まで下落して期末を迎えました。

投資環境 (2018年1月16日～2019年1月15日)

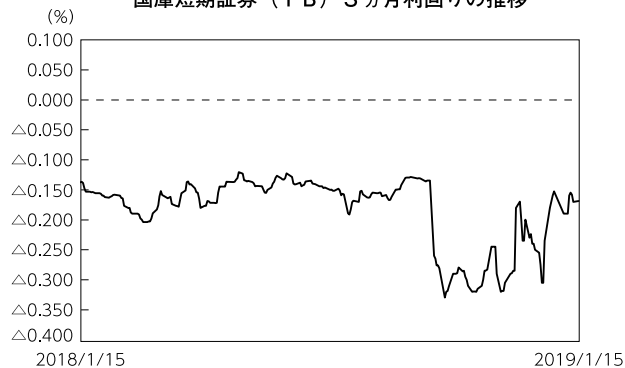
国内債券市場

当期間の残存3か月程度の日本国債の利回りについては、日銀の金融緩和の影響もあり、マイナス圏で推移しました。

日銀は黒田総裁の第2期以降も「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を続けています。また、2018年7月の日銀政策決定会合において、長期金利を0%程度に誘導する目標自体は維持しつつ、変動幅の上限を0.2%程度まで容認する金融政策の調整を行いました。発表直後は、一時的にボラティリティが高まる場面もありましたが、イールドカーブは全体的に狭いレンジでの動きに留まっています。

一方、国債を除く債券については、プラス利回りに対するニーズも強いことから、0%前後の利回りに張り付いた状態になっています。

国庫短期証券 (TB) 3ヵ月利回りの推移



■ ポートフォリオについて（2018年1月16日～2019年1月15日）

主としてわが国の公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。ファンドにとって損失の発生が明らかなマイナス利回りの債券の組み入れを行わず、期末時点での債券の組み入れはありません。

■ ベンチマークとの差異について（2018年1月16日～2019年1月15日）

本邦通貨建ての公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。よってグラフは掲載していません。

今後の運用方針

引き続き短期公社債などを中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指しますが、市場環境によっては、目標とする運用ができない場合があります。

○1万口当たりの費用明細

(2018年1月16日～2019年1月15日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2018年1月16日～2019年1月15日)

該当事項はございません。

○利害関係人との取引状況等

(2018年1月16日～2019年1月15日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2019年1月15日現在)

2019年1月15日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2019年1月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 470,919	% 100.0
投資信託財産総額	470,919	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年1月15日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	470,919,551
コール・ローン等	470,919,551
(B) 負債	1,024
未払利息	1,024
(C) 純資産総額(A－B)	470,918,527
元本	466,412,046
次期繰越損益金	4,506,481
(D) 受益権総口数	466,412,046口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,097円

○損益の状況 (2018年1月16日～2019年1月15日)

項 目	当 期
	円
(A) 受取利息等収益	△ 361,719
支払利息	△ 361,719
(B) 当期利益(A)	△ 361,719
(C) 前期繰越損益金	5,030,085
(D) 解約差損益金	△ 161,885
(E) 計(B＋C＋D)	4,506,481
次期繰越損益金(E)	4,506,481

・解約差損益金とは、解約元本額と解約代金との差額で解約元本額を上(下)回って支払うため損(益)金として処理することになっております。

注記事項

・投資信託の期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額

期首元本額	482,273,384円
期中追加設定元本額	－円
期中一部解約元本額	15,861,338円
期末元本の内訳	
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド円コース	1,781,537円
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド韓国ウォンコース	227,606円
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド中国元コース	693,180円
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド豪ドルコース	792,515円
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド通貨バスケットコース	3,960,411円
アジア・ウェイブ マネーボールファンド	968,798円
世界高配当株セレクト(目標払出し型) 毎月決算・為替ヘッジなしコース	4,951,966円
世界高配当株セレクト(目標払出し型) 毎月決算・為替ヘッジありコース	4,951,966円
世界高配当株セレクト(目標払出し型) 年2回決算・為替ヘッジなしコース	990,394円
世界高配当株セレクト(目標払出し型) 年2回決算・為替ヘッジありコース	990,394円
グローバル・アロケーション・オープン Aコース(年1回決算・為替ヘッジなし)	69,246,703円
グローバル・アロケーション・オープン Bコース(年4回決算・為替ヘッジなし)	366,963,518円
グローバル・アロケーション・オープン Cコース(年1回決算・限定為替ヘッジ)	4,947,950円
グローバル・アロケーション・オープン Dコース(年4回決算・限定為替ヘッジ)	4,945,108円
合 計	466,412,046円